

【2026 年度/教養科目領域/基盤科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
英会話		選択	1	1.2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
ジェイソン・ディーン・スタージョン	C309	jsturjeon	水曜日 14:30-17:30		
授業の目的・概要	この講義ではネイティブの英語を聞き取れるように「発音」に重点を置き、英語の耳作りと口作りをしていく。ネイティブスピーカーが普段使っている「話し言葉」を取り上げ、アクセントやリズム（音の強弱）を練習していく。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	英語を話す方法を学ぶには、実際に話し聞く練習が必要である。そのため、クラス内外のさまざまな状況で英語を使うことが重要となる。				
教科書	必要に応じプリントの配布を行う。				
参考書	英和辞典（授業に必ず持参すること）				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	簡単な英会話に積極的に参加することができる。			HSU(2)	
②	簡単な質問、応答が英語でできる。			HSU(2)	
③	自分の家族や友達などについて英語で描写することができる。			HSU(2)	
④	レストランにおいて、よくある会話が英語でできる。			HSU(2)	
⑤	未来の予定を英語で話すことができる。			HSU(2)	
⑥	英語で道案内ができる。			HSU(2)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	オリエンテーション：授業の流れ、シラバス、評価、採点方法について学ぶ。	講義・演習	中・高校の英単語をできるだけたくさん覚えて、書き留める。		1
2	本を使つての勉強と実践での勉強の違いについて考察し、効果的に英語を話せるようになるための態度について学習する。	講義・演習	家の周りのものを見て、それらを英語で説明しようとする時間を費やす。言いたいのに言えないことに気づいてみる。		1
3	コミュニケーション技術「Native Assistance」を学習する。Yes/No の質問と回答を素早く行う方法を学習する。	講義・演習	授業中で配布した書類を復習する・クラスメイトと練習する。		1
4	コミュニケーションに役立つジェスチャーの効果的な使い方を学習する。WH の質問と回答を素早く行う方法を学習する。	講義・演習			1
5	コミュニケーション技術「Word Coinage」を学習する。読書スピードとフリートークのスピードのギャップについて考察する。	講義・演習			1
6	コミュニケーション技術「Circumlocution」を学習する。その場で素早く効果的に物事を英語で説明する方法を学ぶ。	講義・演習			1
7	コミュニケーション技術「Negative Opposites」を学習する。言語と非言語コミュニケーション技術を一緒に使う方法を学ぶ。講	講義・演習			1
8	グループスピーキングを行う。自分の英語の長所と短所について考察する。	講義・演習			1
9	レストラン英語①：文化およびレストランで一般的に使用されるフレーズを学習する。	講義・演習			1
10	レストラン英語②：文化およびレストランで一般的に使用されるフレーズを学習する。	講義・演習			1
11	未来についての様々な話し方を学習する。英語で素早く正確にアポイントメントを取る方法を学習する。	講義・演習			1
12	道案内①：指示を出すための単語やフレーズを学習する。	講義・演習			1
13	道案内②：指示を出すための単語やフレーズを学習する。講	講義・演習			1
14	OT / PT 患者評価セッションで使用される様々な表現を学習する。	講義・演習			1
15	これまでの学習の総括を行い、どのようなコミュニケーション技術が自分に最も有益かを考察する。	講義・演習			1

【2026 年度/教養科目領域/基盤科目群】

試	3～4 人グループで英語のみで話すことを通して問題を解く。		
---	-------------------------------	--	--

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		50	0	0	0	50	100
総合 力 指 標	知識・技術力	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	30	0	0	0	0	30
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	50	50
問題を発見・解決する力		10	0	0	0	0	10

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①		試験：グループタスクを完成させる。(グループメンバー一人にある情報が与えられ、その情報を英語、コミュニケーションのテクニックを使い、他のメンバーに伝達する。グループメンバーは互いに協力し、問題解決方法を探す。) 評価：日本語を使わずに、正確に情報の伝達、解釈ができるかを評価する。(成績の 50%)	試験の評価、教員による個人的な助言・コーチング
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤	✓		
	⑥	✓		
その他	①	✓	成績評価は主に授業におけるスピーキングアクティビティへの積極的参加や、英語、コミュニケーションのテクニックを駆使する努力を評価する。授業内でのアクティビティは日本語を使用しないこと。加点は、英語の正確さよりタスクの成功や失敗に重点を置く。(成績の 50%)	教員からの個人的な助言・コーチング、スピードチェックの結果
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		

備 考

他 担 当 教 員	なし
教員の実務経験	19 年間日本で英語を教授しており、10 年間は本学で英語教育に携わっている。
実践的授業の内容	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は、旧カリキュラム「英語 会話」の読替科目である。</li> <li>・学生は態度と英語を話すスキルに基づいて評価されるため(書式による課題はない)、出席と参加は非常に重要となる。クラスに欠席すると、その日は 0 点になる。</li> <li>・会話クラスの性質上、感染のリスクは通常よりも高くなる可能性がある。従って教室の換気が頻繁に行われるため学生は温度調整ができる服装で参加することを推奨する。また、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法(マスク着用等)を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。</li> <li>・各クラスは 24 人の学生に制限されている。万が一、24 人以上の学生が同じクラスに登録した場合、一部の学生は登録を解除される可能性がある。</li> </ul>